

メンバーシップの流動性と能力格差が職場の協調に及ぼす影響

○仲間大輔（東京大学/リクルートマネジメントソリューションズ）・村本由紀子（東京大学）

キーワード：流動性, 能力格差, 協働, 職場

集団内のメンバー間の資源や能力の格差が集団内の協調行動に影響することが近年明らかになつてきたが、その影響は正負両面の方向性の知見が混在しており、さらなる検討が求められている (Greer et al., 2018)。

本研究では、職場におけるメンバーシップの流動性、つまり職場のメンバーが入れ替わる程度に注目し、メンバー間の能力格差が協調行動に及ぼす影響を流動性がどのように調整するかを検討する。流動的な環境では協調行動が低下する可能性を示唆する知見もある一方 (Oishi et al., 2007; Komiya et al., 2020)、メンバー間の能力差異が明らかとなる場合は関係構築に向けた努力が誘発されることを示唆する議論もあり (岩谷・村本, 2017)、流動性の異なる環境下でメンバー間の能力格差がどのように協調行動と結びつくのは明らかとなっていない。

先行研究の議論を参照すると、集団内の能力の格差は、それをもとに個々のメンバーが取るべき行動についての期待が調整されることを通じて、協調行動に対してポジティブに影響し得るとされる (Halevy et al., 2011)。ここで、そうした期待の調整の必要性は、メンバーが固定的な場合よりも流動的な場合において大きいと想定できることから、能力の格差のポジティブな影響は、メンバーシップの流動性が高いときに顕著になると考えられる。実際、仲間・村本 (2020) では、2-person PD を用いた集団実験によって、高流動条件 (ペアの相手がラウンドごとに異なる) では、メンバー間の資源量の格差が協調を促進する働きを持つことが示されている。

以上より、本研究では、「メンバーシップの流動性が高いときにメンバー間の能力の格差は協調を促進する」という仮説を、職場を対象にした調査によって検証する。

方法

インターネット調査会社を通じて募集した、非管理職として働く正社員 600 名を対象とした調査を行った。
協調行動 組織の中でのジレンマ状況における協調行動として組織市民行動 (OCB) を捉える議論に倣い (Balliet & Ferris, 2013)、OCB 尺度 (7 項目) に 5 段階で回答させた (e.g., “多くの仕事を抱えている人がいたら支援する”、“同僚に対して情報を共有する”)。

流動性 「同じ職場に一年前からいる人の割合」を%で回答させた。中央値(90%)で 2 群に分割し分析に用いた。

能力格差 「職場内のメンバーの保有知識やスキルのレベル」のばらつきについて 5 段階評定で回答させた。

結果と考察

協調行動 (OCB) を目的変数とし、能力格差、流動性、その交互作用項、年齢と性別を説明変数とした重回帰分析を行った。その結果、流動性×能力格差の交互作用項が有意となった ($\beta = .60, p < .001$)。つまり、流動性が高い職場において能力格差は協調行動につながるが、流動性が低い場合にはそのような効果は見られなかった (図 1)。また、こうした結果は、職場における立場 (担当者 or リーダーレベル) に関わらず見られていた。これらは仲間・村本 (2020) の実験結果と整合的であり、流動性と能力格差の組み合わせによって、職場全体の協調行動が影響を受けることが示唆された。

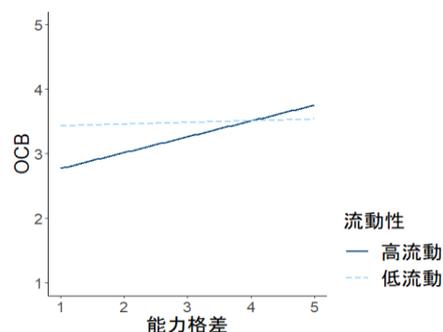


図 1 能力の格差と流動性が OCB に与える影響

引用文献

Balliet & Ferris (2013) Ostracism and prosocial behavior: A social dilemma perspective. *Org Behav Hum Decis Process* / Greer, et al. (2018). Why and when hierarchy impacts team effectiveness. *J App Psychol.* / Halevy, et al. (2011) When hierarchy wins. *Soc Psychol Pers Sci* / 岩谷舟真・村本由紀子 (2017) 集団内地位と規範遵守行動の関係についての実験的検討. *日本社会心理学大会* / Komiya et al. (2020) Socio-ecological hypothesis of reconciliation. *Front Psychol.* / 仲間大輔・村本由紀子 (2020). 流動性と貢献能力の格差が協力行動に及ぼす影響. *日本社会心理学大会* / Oishi et al. (2007) Residential mobility, self-concept, and positive affect in social interactions. *J Pers Soc Psychol.*